古石ひでさと4期目に向かっての議会活動

古　石　ひでさと後援会だより

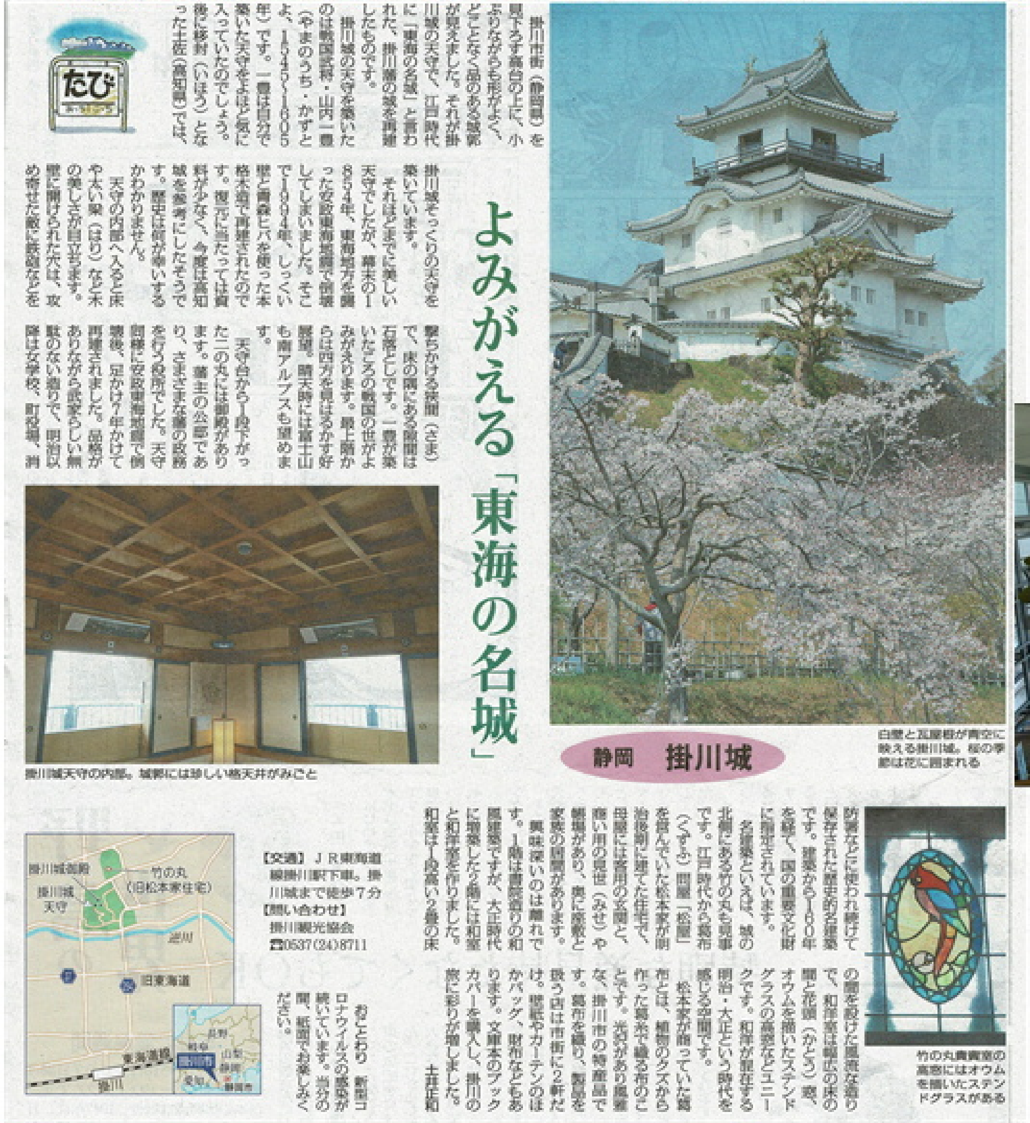
URL：http://古石.com/

第　3653号
発行令和３年４月
古石　ひでさと後援会事務所
岩見沢市幌向南１条１丁目
TEL　26－2226

市政についてご提案、ご意見などがありましたらお聞かせください。

E-mail-furuishi@gray-plala.or.jp

掛川市　民生視察


たび
掛川城御殿
掛川城天守
竹の丸（旧松本家住宅）
逆川
旧東海道
東海道線
掛川
長野
岐阜
山梨
静岡
愛知
掛川市
静岡市

よみがえる「東海の名城」

静岡　掛川城

掛川市街（静岡県）を見下ろす高台の上に、小ぶりながらも形がよく、どことなく品のある城郭が見えました。それが掛川城の天守で、江戸時代に「東海の名城」と言われた、掛川藩の城を再建したものです。

掛川城の天守を築いたのは戦国武将・山内一豊（やまのうち・かずとよ、1545〜1605年）です。一豊は自分で築いた天守をよほど気に入っていたのでしょう。後に移封（いほう）となった土佐（高知県）では、掛川城そっくりの天守を築いています。

それほどまでに美しい天守でしたが、幕末の1854年、東海地方を襲った安政東海地震で倒壊してしまいました。そこで1994年、しっくい壁と青森ヒバを使った本格木造で再建されたのです。復元に当たっては資料が少なく、今度は高知城を参考にしたそうです。歴史は何が幸いするかわかりません。

天守の内部へ入ると床や太い梁（はり）など木の美しさが目立ちます。壁に開けられた穴は、攻め寄せた敵に鉄砲などを撃ちかける狭間（さま）で、床の隅にある隙間は石落としです。一豊が築いたころの戦国の世がよみがえります。最上階からは四方を見はるかす好展望。晴天時には富士山も南アルプスも望めます。

天守台から1段下がった二の丸には御殿があります。藩主の公邸であり、さまざまな藩の政務を行う役所でした。天守同様に安政東海地震で倒壊後、足かけ7年かけて再建されました。品格がありながら武家らしい無駄のない造りで、明治以降は女学校、町役場、消防署などに使われ続けて保存された歴史的名建築です。建築から160年を経て、国の重要文化財に指定されています。

名建築といえば、城の北側にある竹の丸も見事です。江戸時代から葛布（くずふ）問屋「松屋」を営んでいた松本家が明治後期に建てた住宅で、母屋には客用の玄関と、商い用の見世（みせ）や帳場があり、奥に座敷と家族の居間があります。

興味深いのは離れです。1階は書院造りの和風建築ですが、大正時代に増築した2階には和室と和洋室を作りました。和室は1段高い2畳の床の間を設けた風流な造りで、和洋室は幅広の床の間と花頭（かとう）窓、オウムを描いたステンドグラスの高窓などユニークです。和洋が混在する明治・大正という時代を感じる空間です。

松本家が商っていた葛布とは、植物のクズから作った繊維で織る布のことです。光沢があり風雅な、掛川市の特産品です。葛布を織り、製品を扱う店は市街に2軒だけ。壁紙やカーテンのほかバッグ、財布などもあります。文庫本のブックカバーを購入し、掛川の旅に彩りが増しました。

土井正和

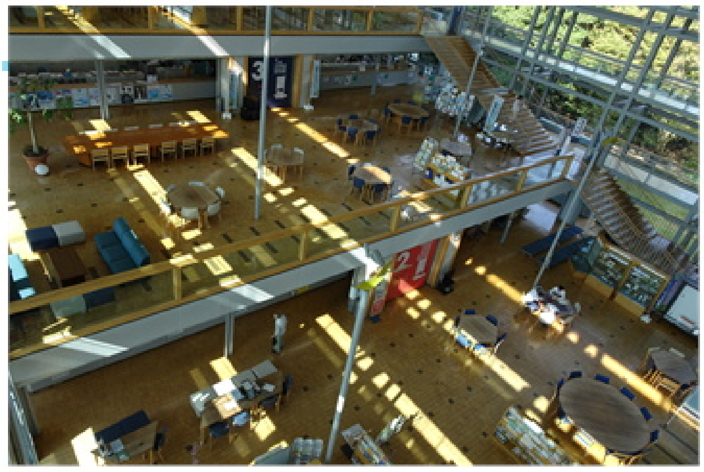
白壁と瓦屋根が青空に映える掛川城。桜の季節は花に囲まれる

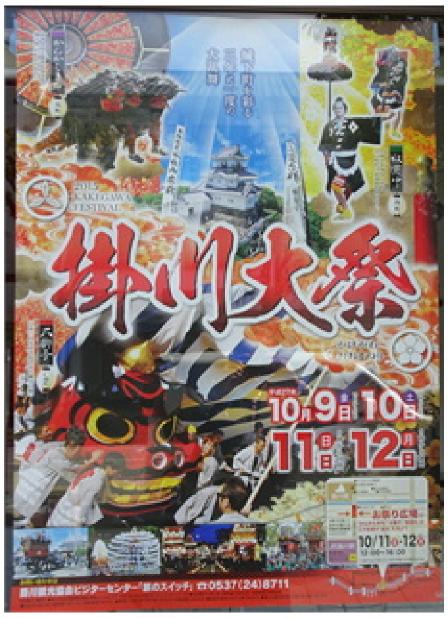
掛川城天守の内部。城郭には珍しい格天井がみごと

竹の丸貴賓室の高窓にはオウムを描いたステンドグラスがある

【交通】ＪＲ東海道線掛川駅下車。掛川城まで徒歩７分
【問い合わせ】掛川観光協会
☎0537(24)8711

おことわり　新型コロナウイルスの感染が続いています。当分の間、紙面でお楽しみください。




KAKEGAWA FESTIVAL
掛川大祭
10月9日 10日 11日 12日